

# 但馬沖から採集された未記録魚の二、三に就いて

山 本 孝 治

日本海は表面積1,302,400平方軒、最大水深4,000米、平均水深1,500米もある深い海であつて、対馬海峡、津軽海峡、宗谷海峡及び間宮海峡によつて外海と連絡している。これらの海峡は日本海の広さや深さに較べると殆んど論ずるに足りない程せまく且つ浅い。従つて沖合の中層以上は温度の低い日本海固有の冷水によつて満たされている。北方間宮海峡から沿海州沿岸を南下してくる寒流リマン海流は北鮮沿岸で表面から没して下層流となり、又南方対馬海峡から流れ込む暖流対馬海流は日本海に入つて表面に広く薄く拡がるので暖流の直接の影響は上層のみに限られ深部に迄及ばない。

日本海の場合がこの様な特長を持つていたので、ここに去来する魚類は季節により海流の消長に伴つて全くその種類を異にする。即ち春から夏にかけて表面水温の上昇と共にイワシ、サバ、アジ、トビウオの如き暖流性の表面遊泳魚が南から入り込み、秋末表面水温が低下するに従つて南へ去り、タラ、スケソウ、カレイ、ズワイガニの如き寒流性の底棲魚類が深部の海底から大陸棚上へ出てきて機船底曳網によつて漁獲される。

毎年斯様な変化を繰り返しているのであるが、時によると夏に暖流に乗つて熱帯性の珍魚が入つてくることがあり、又反対に寒流系の深海性魚類が割合に浅い所に出てきて採集されることがある。以下筆者が観察した但馬沖で採集された日本海として分布上珍しい魚類の若干を御紹介する。(※)

## (1) 南方系の魚類

### 1. ヤリマンボウ *Masturus lanceolatus* (Lienard)

昭23.9.10.香住、全長1175mm、体長915mm、体高620mm、頭長350mm、腸長4450mm、体重51.4kg、体類る側扁し皮膚厚く外形は普通のマンボウに似ているが尾鰭の中部軟条が突出している点でマンボウと区別される。これ迄福岡、ハワイ、東印度諸島、北米フロリダ等から知られていて日本としては最初の採集記録であると思われる。

### 2. スギ *Rachycentron canadum* (Linne)

昭22.7.19.香住、全長1075mm、体長875mm、体高180mm、頭長225mm、体重8.3kg、第1背鰭8離棘、第2背鰭1棘35軟条、臀鰭2棘25軟条、体延長し、頭部は縦扁してやゝ巾広い。尾鰭はやゝ大きく上葉は下葉より長い。体色灰褐色。南日本、台湾、漳州、印度洋、紅海及大西洋の熱帯

(※) 広義の魚類で、動物分類学上の魚類以外の水産動物をも含む。

部に広く分布している魚であつて、日本海では富山湾で採集されているが珍しい魚である。筆者に昭和18年夏に釜山近海で1度採集したことがある。

### 3. フリモドキ *Naucrates indicus* Cuvier et Valenciennes.

昭24.7.26.香住、全長280mm、体長245mm、体高74mm、体重248gm、第1背鰭5離棘、第2背鰭1棘26軟条、臀鰭1離棘と1棘16軟条、プリに近い魚であつて体側には6条の明瞭な黒い横縞があり、尾鰭は黒くその上葉及び下葉の先端は白い。外国では Pilot fish と呼ばれている。それは本種が大形のサメ等と一緒に遊泳し、サメを食物のある所へ誘導すると共に自己を食害する他の魚をサメに威嚇して貰つて相互に利益を受けるといわれているからである。熱帯部及温帯部に分布し、日本海では富山湾から報告されているが、珍しい魚の一つであらう。

### 4. ナミノハナ *Iso flos-maris* Jordan & Starks

昭24.8.9.香住(4尾)

No.	全長	体長	頭長	体高
1.	59mm.	51mm.	11mm.	11mm.
2.	59.5	51.5	11	11
3.	53	47	10.5	10.5
4.	31	26	6	6

成魚の体長60mm以下の小さい魚であつて、ボラに近縁の魚である。体は著しく側扁し、胸部に於て体高が最も高い。腹縁には肉質ひだがある。胸鰭の位置は頗る高く体側の中央よりも背方に偏在している。鱗はやゝ細かく、体側には巾の広い銀白色の一縦帯があり、その上縁は黒い。尾鰭には小黒点が飛白状に存在し、その基部には2個の顕著な小黒点がある。本邦中部以南の大平洋岸にやゝ普通にみる魚であるが、日本海では初めての記録である。

### 5. ヒメイトマキエイ *Mobula kublii* (Müller & Henle). (?)

筆者の採集したものでないが、昭和8年6月頃香住の大敷網で1尾漁獲されたことがあり、当時の写真を当地神戸新聞通信員島田氏が所持して居られる。筆者は最近この写真を見る機会を得たが、頭鰭の形態、眼の形態等からこの写真の魚を本種と推定する。写真はこの魚を荷馬車に積んだ所であつて、胸鰭の先端は荷馬車の前端及び後端よりはるかに張り出している点から推測して、胸鰭の先端から先端迄の体長の巾約5米、頭鰭の長さ約1米、両頭鰭の基底部の間隔約1米位と推定される。本邦に於ける本種の分布は明らかではないが、東印度諸島、印度洋、南アフリカ等

の熱帯地方に広く分布していて、日本海としては珍しい魚の一つである。

6. ムラサキダコ *Tremoctopus violaceus* Delle Chiaje.

昭24.7.17.香住、全長400mm、胴腹長100mm、胴巾75mm、体重510gm、雌雄により大きさを異にするタコ類であつて、雌は大形になり、第1脚の傘膜は著しく発達して脚の全側に帆膜状に広がって第2脚に連なっている。体色紫褐色で体の背面は特に色が濃い。雄は雌に比べて著しく小形であつて帆膜状の傘膜がない。太平洋や大西洋の温帯部及熱帯部に分布し、外洋性のものであつて、蛇が海中に入つてタコに変ずるという伝説で有名なタコである。

(I) 北方系の魚類

1. ウロコメガレイ *Acanthopsetta nadeshnyi* Schmidt.

No.	採集年月日	採集地	全長 mm.	体長 mm.	体高 mm.	体重 g.
1.	昭23.10.3	(香住沖 250m)	365	305	139	475g.
2.	昭24.5.26	(日御崎沖 318m)	350	300	131	388
3.	"	"	330	275	123	303

口や大きく、眼隔大きく、体高のや高いカレイであつて、体軀、頭部、吻部、眼隔部、眼球、各鱗等殆んど全身が比較的大形の櫛鱗で被われている。樺太、オホーツク海、沿海州、北鮮沿岸、及び北海道西岸から福井県沖合に亘つて分布することが知られ片山正夫氏も香住で本種を採集しているが、今回の採集によつて300米位の深い所にそつてこれよりも遙かに南の方迄分布していることが解つた。

2. アンカスベ *Raja fragilis* Ishiyama

No.	採集年月日	採集地	全長 mm.	体盤長 mm.	体盤巾 mm.	体重 g.
1.	昭23.10.2	(但馬隠岐 堆450m)	690	400	500	2440g.
2.	昭24.5.26	(日御崎沖 318m)	325	170	228	200
3.	"	"	705	430	560	2190
4.	"	"	780	470	580	3500
5.	"	"	825	540	600	4580

体盤の形は菱形に近く、皮膚滑かであつて、体盤の前外縁、両眼隔、並に体盤の中央部より尾部の両側縁に連なつて小棘が密生し、又眼の後方より尾部の背中線に連なつて約35個のや大形の棘が1列に並んでいる。体盤の畧中央部にはこの棘列に直交して2個のや大形の棘が存在している。本種は従来但馬の底曳網業者によつてシロエイ又はクダエイと呼ばれていたや深海性のエイであつて京大水産学教室の石山礼蔵氏によつてアンカスベ(*Raja fragilis*)と新しく命名されたもの(未公表)である。石山氏は石川県金石沖で採集した由であるが、深部にそつてこれよりも遙かに南の方迄分布していることが解つた。

3. セツバリカジカ *Malacocottus gibber* Sakamoto

昭23.10.2. 但馬隠岐堆(450m)、7尾

No.	全長	体長	頭長	体高
1.	140mm.	114mm.	50mm.	33mm.
2.	135	111	46	30
3.	132	104	47	29

(他に全長 120—180mm. のもの4尾)

頭部大きく、鱗なく、薄くて弱い皮膚を被つている深水性のカジカ類である。これ遠宮山湾から知られていたのみであるが、本種も深部をつたわつてすつと南の方迄分布していることを知つた。

4. ホテイウオ *Cyclopterichthys ventricosus* Pallas.

昭23.10.2. 但馬隠岐堆(450m)、全長155mm.

体球形に近く、皮膚円滑であつて鱗がない。眼は比較的小さく、腹鱗は吸盤を形成している。東北地方の北部からオホーツク海、ベーリング海、カムチャツカ地方に分布し日本海では新潟沖合及び富山湾迄分布していることが知られているが、これよりも尙南の方に遠深部にそつて分布していることを知つた。

5. ベニズワイ *Chionoecetes japonicus* Rathbun.

昭23.10.2. 但馬隠岐堆(450m) 11尾

No.	性別	甲長	甲巾	第2前脚長	後脚傾角
1.	♂	128mm.	129mm.	141mm.	127°
2.	♂	126	132	139	126°
3.	♂	115	114	113	122°
4.	♂	111	111	108	129°
5.	♂	110	110	114	126°
6.	♂	110	109	87	126°
7.	♂	91	93	114	130°
8.	♀	75	75	70	131°

普通のズワイガ(但馬地方の方言松葉ガ)に似ているが、甲は平滑で脚城が著しく膨れ甲の両側縁よりも外方に突出しており、後脚城での傾角が小さく、心域はせまくや深く凹み、甲背上の小突起群は個々に離れて散在し、疣状突起をなせず、又甲前脚縁小棘列は鋭く尖つている点がズワイガと異つている。甲の色は背腹両面とも大部分が朱紅色であつて所々に橘黄色を混じている。本邦近海では米国の海洋探検船 Albatross 号によつて佐渡沢崎沖(980m)で採集され、その後ソ聯の調査船によつてペーター大帝湾附近(900—2,300m)及び日本海北部(900—1,251m)から採集された。筆者は昨年秋に但馬隠岐堆で従来の採集記録の約半分の深度の所から採集し、甲の色からこれにベニズワイという新称を附して学界に紹介した。

附 記

以上但馬沖から採集された南方系及び地方系の分布上珍しい魚類について紹介したが、但馬沖以外の西南日本海から筆者が採集したこれ迄未記録の南方系の魚を若干紹介して本稿を結ぶ。(以下74頁に続く)

34. *Fauriella lepidoziaea* Besch. エダツロ コゴケモ  
ドキ  
分布、広く各地に産。
- **Fabroniaceae** コゴメゴケ科
35. *Fabronia Matsumuræ* Broth. コゴメゴケ  
分布、本州、九州
- **Thuidiaceae** シノブゴケ科
36. *Haplophragma triste* (Ces.) Kindb. イワイト  
ゴケ  
分布、日本(九州~北海道) 亜、欧、北米
37. *Thuidium glaucinum* (Mitt.) Bosch. et Sande  
Lacoste. アオシノブゴケ  
分布、台湾~本州、亜、北米
38. *Thuidium viridiforme* Card. ナガバコシノブゴケ  
分布、本州
39. *Haplocladium capillatum* Broth. コバノキヌゴケ  
分布、日本(九州~北海道) 亜細亜
- **Brachytheciaceae** アオギヌゴケ科
40. *Brachythecium populeum* (Hedw.) Br. eur. アオ  
ギヌゴケ  
分布、日本(九州~北海道) 朝鮮、亜欧、北米
41. *Rhynchostegium inclinatum* (Mitt.) Jaeg. カヤ  
ゴケ  
分布、九州~北海道
42. *Rhynchostegium pallidifolium* Mitt. コカヤゴケ  
分布、九州~北海道
- **Entodontaceae** ツヤゴケ科
43. *Entodon attenuatus* Mitt. ツヤゴケ  
分布、九州~北海道
- **Plagiotheciaceae** サナダゴケ科
44. *Plagiothecium longisetum* Ldb. ナガエノサナダ  
ゴケ  
分布、九州~本州
45. *Plagiothecium sylvaticum* (Huds.) Br. eur. エゾ  
サナダゴケ

- 分布、日本(本州~樺太) 亜、欧、弗、北米
46. *Plagiothecium splendens* Schmp. var. *brevira-*  
*neum* Card. コエノサナダゴケ  
分布、本州
- **Sematophyllaceae** ハシボソゴケ科
47. *Brotherella Henoni* Broth. カガミゴケ  
分布、九州~本州
48. *Sematophyllum japonicum* Broth. ナガハシゴケ  
分布、台湾~本州
49. *Clastobryella Tsunodae* Broth. et Yasuba コモ  
チイトゴケ  
分布、本州
- **Hypnaceae** ハイゴケ科
50. *Taxiphyllum Hisauchi* Okam. ハマキヤワラゴケ  
分布、本州、九州
51. *Isopterygium Textorii* Lac. アカイチイゴケ  
分布、九州~本州
52. *Hypnum fertire* Sendth. ヒメチリメンゴケ  
分布、九州~北海道、朝鮮、亜、欧、北米
53. *Ctenidium capillifolium* Broth. クシノハゴケ  
分布、九州、本州
- **Diphysciaceae** イクビゴケ科
54. *Diphyscium fulvifolium* Mitt. イクビゴケ  
分布、本州~台湾、朝鮮
- **Polytrichaceae** スギゴケ科
55. *Catharinaca undulata* (L.) Web. et Mohr. ナミ  
ガタタチゴケ  
分布、北海道~九州、亜、欧、弗、北米
56. *Pogonatum inflexum* Lindb. コスギゴケ  
分布、台湾~北海道、朝鮮、満州、支那
57. *Pogonatum spinulosum* Mitt. (和名) ハミズゴケ  
分布、九州~北海道、支那、比島
58. *Polytrichum commune* L. ウマスギゴケ  
分布、樺太~台湾、朝鮮、世界中広く分布

1. オオメハタ *Malakichthys griseus* Steindachner &  
Doderlein.  
昭24.1.25. 山口県見島沖(従来の分布、本州中部以南、  
支那、台湾、フィリッピン等)。
2. コケビラキ *Citharoides macrolepis* (Gilchrist)  
昭23.5.2 山口県見島沖(従来の分布、熊野灘、高知沖、  
長崎、朝鮮海峡、南アフリカ等)。
3. イイジマダルマガレイ *Psettina ijimae* (Jordan &  
Starks)  
昭22.11.17. 沖ノ島東方(従来の分布、駿河湾、高知沖、

- 九州南岸沖等)。
4. カワラガレイ *Pocillopsetta plinthus* (Jordan &  
Starks)  
昭22.11.17. 沖ノ島東方(従来の分布、駿河湾、尾張、高  
知沖等)。
5. ホタテウミヘビ *Pisodonophis zophistius* (Jordan  
& Snyder)  
昭22.11.11. 浜田附近(従来の分布、東京湾、三河湾、三  
崎、鹿児島等)。